

第8回 高知県史編さん編集委員会議事概要

日時：令和6年2月24日（土） 09:30～12:30

場所：高知城歴史博物館 1階 ホール

出席委員：藤井委員長、羽賀副委員長、井上委員（リモート）、津野委員、渡部委員、三宅委員、小幡委員、大門委員、岩佐委員、鋤柄委員、松田委員、常光委員、佐藤委員、岡本委員、三浦委員、邑田委員（リモート）

事務局：中内課長、山崎企画監兼室長、土居課長補佐、目良チーフ、紀ノ國主幹、坂本専門員、小林主事、弘田主事

1 開会

2 挨拶

藤井委員長より開会挨拶

3 報告事項

（1）前回までの編集委員会の概要について

資料1について、事務局より説明。

- ・クラウドサービスの削除権限について、柔軟に対応して参りたい。各部会共通のフォルダーについても、整理していく。ただし、外部関係者とのやりとりについては、情報保護の観点から慎重に進めて参りたい。
- ・県史の判型や段組について、カラー写真や附属資料に関する意見が寄せられた。各専門部会と今後調整を図っていききたい。
- ・高知県史のHPについては、県史単体でのHP展開は難しい。そこで課HPに編さん室のページを設けた、今後も内容の拡充を図っていききたい。
- ・電報的な業務報告は、本日の協議課題でもある「高知県史へのいぎない（仮称）」で整理したいと考えている。県史研究については、まだ資料調査が始まり2年しか経過していないため、令和7年度末、第1期が終了する時期を目処に検討したい。
- ・海外資料調査については、令和7年度以降、各専門部会にて候補等あれば、まず事務局へ相談いただきたい。

各委員、質問等なし

（2）各専門部会の活動状況について

（古代・中世部会、近世部会、近代部会、民俗部会、現代部会）

資料2について、各専門部会長より説明。

【古代・中世部会】

- ・資料編の体裁について古代資料は、綱文や注釈の入れ方など、踏み込んだ形での編集方針の検討がされている。中世資料については、旧県史に収録されている編年資料集、史料編纂所にて作成されている複製の目録を作成するにあたり、方針等確認を行った。
- ・県内所在の古代中世資料の追跡調査を積極的に進めており、今後は史料編纂所と合同での資料調査を考えている。
- ・旧県史のみならず、土佐国編年史料控のような目録化されているデータなどについても並行し、資料編1の全体的な基礎情報を整理することに尽力している。
- ・またクラウドサービスを活用し、所在目録などの目録を委員間へ共有し始めた。目録や画像等を委員間で共有、チェックしながら、中世資料についても古代資料と同じように資料編のイメージを固めていきたい。
- ・今後については、令和6年3月17日に埼玉県立歴史と民俗の博物館にて金子家文書の調査を予定している。

【近世部会】

- ・令和5年の活動として、専門部会を計5回（対面2、オンライン3）開催した。
- ・令和5年9月に高知大学元学長の関田英里氏が収集した古文書及び研究メモの調査を行った（約1,500点）。また、同年12月に宿毛市立歴史館所蔵の伊賀家文書及び宿毛市史資料集の調査を行った。令和6年3月には関田氏の収集資料の残り部分及び県立図書館にて所蔵されている三谷家文書（豊永郷西峰）の調査を実施予定である（約3,500点）。
- ・そして、各専門部会委員の個別調査、事務局において人材育成の観点から県内の学生を中心に資料撮影や翻刻作業などが行われた。
- ・来年度は専門部会を年3回開催し、随時情報共有を図っていく。数年後に発刊予定の資料編1に向け、史料の選定、目次案の作成など進めて参りたい。

【近代部会】

- ・令和5年12月25日に専門部会を開催。9月以降の合同調査や個別調査について、資料編2の目次構成案等について協議を行った。
- ・令和6年3月に高知市立自由民権記念館にて、吉良家文書、細川家文書、竹村家文書の調査を行う予定で、安芸市図書館所蔵資料は3月をもって一旦終了見込みである。
- ・各専門部会委員の個別調査だけでなく、愛媛県立図書館、徳島県立文書館・図書館などを訪問し資料調査を行った。

- ・来年度は須崎市役所文化財課管理資料「近現代簿冊仮目録」の作成、議会事務局所蔵の明治初年からの議事録・議決録の整理及び調査を進めていく。また、来年度早々より翻刻作業の準備を進め、掲載候補の資料に対しアプローチをかけていく予定。

【民俗部会】

- ・令和6年3月に中土佐町鎌田の倉庫に収蔵されている漁業関係の民具調査を行う。また、資料編1の刊行に向け、文献のリスト作成を精力的に進める予定である。
- ・資料編1に掲載予定のテーマは「口承文芸」、「地名」、「民謡」と決定したが、漠然と資料調査をする訳にはいかず、分類分けや構成を早い段階で検討していく。
- ・本編の第1巻は「山間部」、「平野部」、「町場と都市」、「沿岸部」の4つの分類とし、地域の民俗文化の特色が浮き彫りにあるよう描いていく。また、第2巻は第1巻で取り上げられなかった分野などを全体のバランスを考慮しながら描いていく予定。
- ・令和5年10月下旬より梶原町にて、津野山神楽、伊予との文化圏交流等について合同調査を行った。また、1月下旬には鳥取県史編さんについて、担当者へ話を伺いにいき、編さんの段取りなど大変参考になったため、共有し活かしていきたい。

現代部会の報告を前に、委員へ意見・質疑を求める。

【各専門部会の意見】

○資料の所在調査について

- ・資料の所在や情報について、これまで以上に何らかの形で情報共有をお願いしたい。旧県史の目録の確認など、部会横断的に所在調査を全体で進める方向を模索いただきたい。
- ⇒（事務局）現在34市町村を一巡し、旧町村への追加調査を予定している。所在調査については今後も不明なところは追加調査を行うが、予算や体制にも限界があり、近世編や近代、民俗編の刊行が近づいている背景もある。優先順位をつけ、各専門部会の意見を踏まえながら所在調査を進めて参りたい。
- ⇒（委員長）（新聞資料の記事内容を受け）近世だけの問題ではなく、来年度の半ばまでには所在調査の確認をしてほしい。事務局のみで対応できなければ、各専門部会にも調査に参加してもらおう形を。
- ⇒（事務局）承知。
- ⇒（委員）東京大学史料編纂所にて、昭和7年から11年頃にかけての資料収集目録が約800Pほどある。事務局と相談し、データ・情報化していくことが必要と思う。

⇒（委員長）上記目録については、近世と連携し対応していただきたい。また、旧合併市町村の土地台帳や住民登録等以外の資料は旧役場に残されていることが多い。こちらについても確認いただきたい。

○HP掲載内容について

- ・HPにて、「県史編さんに関係する資料や文献等情報を寄せていただきたい」旨記載し、情報収集することに努めていただきたい。

⇒（事務局）早速対応する。HP以外にも市町村訪問時の各市町村担当職員への声かけや文化広報誌とさぶしなどにて掲載するなど、展開をしていきたい。

【現代部会】

- ・他の都道府県史を通じて、大まかに時期区分、分野優先の2つの編纂方針がとられてきたことを確認した。また、高知県の戦後史研究、令和5年夏期合同調査の実施と検討を行った。
 - ・上記検討を行い、過疎視点の再考や分野の関連、長期的・空間的な視点で諸関連を総合的に検討することが高知県の現代の特徴では必要と気づき、引き続き部会内で協議を継続発展していく。
 - ・これら議論を重ねた結果、「高知県史編さん基本方針」に掲げる「くらし」を高知県の現代を明らかにする総合的・包括的な視点と設定し、巻のタイトル、巻構成に組み込んでいきたい。
 - ・資料編の構成は、西部の資料や高知県の戦後全体にわたる資料を重点収録する「くらし1」、東部の資料や戦後前半期の資料を収録した「くらし2」、中部の資料や戦後後半期の資料を収録した「くらし3」と区分することし、くらしの視点がみえるような形をとりたい。
 - ・全体の並びなどにも関連する内容であるため、今回の議論で決定するものではなく、他部会の意見等もいただきながら、協議を進めてまいりたい。
 - ・令和5年12月に「聞き書き編・動画撮影編」の養成講座を開講。また、高知城博の出前講座に部会委員が登壇し、参加をした。
- ⇒（委員）場合によっては重なる点も多いが、視点は少し異なる。相乗効果で高知県の歴史と文化を県民へお届けできることを期待する。
- ⇒（委員長）タイトルの問題は、また別に検討したい。各巻の構成にて、高知県戦後について重なる点があるが、「くらし1」の全体に関わる資料は2、3巻には掲載されないのか。
- ⇒（委員）1巻は一定まとまりのある資料を重点的に収録する予定。2、3巻については調査の進展も期待されるため、より細かな資料を含めて収録していく予定。

⇒（委員長）くらしを各巻のタイトル、背表紙に入れる意見が出されたが、各部会も同様にそれぞれテーマが決まっているはず。次回委員会の場で、複数資料巻を担当する部会に現時点のイメージを共有いただき、方向性を決めたいと考える。

（３）来年度以降に設置予定の専門部会について

考古部会長より説明。

- ・「観て歩いて実感する」、遺跡や遺物の新たな意味と価値をわかりやすく語り、地域の活性化に資する魅力的な宝であることを県民の方々と共有することで、県史としての役割を果たしたいと考える。
 - ・全体会議は年２回、春期と秋期に開催する予定。
 - ・本編に向けた調査計画として、歴史文化財課と協同で重要遺跡の検討や県内文化財の災害時対応についての検討を進めて参りたい。
 - ・成果公開に向けた調査計画としては、先ほどＨＰの話があった。情報発信力は重要であり、「高知県史」と検索すれば表示されるよう、工夫をしていただきたい。
 - ・考古部会スケジュール構成の内、「戦跡」、「水中遺跡」、「石造品」、「金属製品」、「棟札」を部会長担当とした。聞き取り調査では現代部会、「棟札」については文化財部会へ協力することも想定されており、全部会で一緒に動き始める時期にきたんだと感じる。
- ⇒（委員）旧県史の近世資料など、収録されているものを目録化しているため、共有させていただきたい。

（４）令和６年度当初予算案の概要について

事務局より説明。

- ・編さん委員会を年１回、編集委員会を年３回開催する費用を計上。そのほか、各専門部会の調査活動に要する費用は、おおよそ要望通り確保することができた。

（５）広報啓発、人材育成について

事務局より説明。

- ・広報啓発として、文化広報誌とさぶしの刊行、講演会の開催などを行った。
- ・人材育成とし、「聞き書き・動画撮影編」、「資料撮影編」の計２回の養成講座を開講した。

各委員、質問等なし

4 協議事項

(1) 巻の構成モデルについて

資料5について、事務局より説明。

- ・来年度までを目処に、基本となる巻構成モデルを作成し、各部会へ例示したい。
- ・資料編、本編の1巻当たりの構成はA5判で1,000P、25字×18行×2段の900文字、10ポイントを基本に編集することが前回委員会で承認された。民俗、考古、文化財、自然部会については検討中または発足後の検討とし、今回は文献のみ議論させていただきたい。
- ・直近に刊行された4県（愛知県、青森県、鳥取県、山口県）の近世史料編を参考とし、構成案を提示する。凡例や奥付の構成やページ配分、索引の掲載、巻頭言などは時代や分野によって様々であるため、各専門部会と個別に調整を図りたい。

⇒（委員長）次回委員会の場で、各資料編の構成を具体的に示していただき、調整を図るようにしたい。

(2) 県史編さんの成果をまとめた冊子の刊行について

資料6について、事務局より説明。

- ・来年度4月早々に印刷業者の選定を行う予定。7月頃には記事の具体的な文字数や内容を提示し、各部会へ執筆の依頼をさせていただく予定。11月には原稿等画像データを取りまとめ、校正（3～4回）作業に取り組む予定である。

⇒（事務局）タイトルについては、「高知県史へのいざない(仮)」を当面の案と仮設定させていただき、業者との協議の中で別案が出た場合には再度お諮りすることとしたい。

各委員、質問等なし

5 その他

協議事項後、各委員より以下のとおり意見が出される。

【各専門部会委員の意見】

- ・HPだけでなく、Facebook、Twitterなど、情報発信を検討いただきたい。
- ・令和6年度の県史編さん室の部屋が変更されると聞いたが、どういう状況か。

⇒（事務局）来年度は現協議スペースを変更し、2課共有となる予定。ただし、協議スペースは別フロアに用意する予定であるため、大きく面積は変わらない。

⇒（委員長）各専門部会が活用し、撮影等のアルバイトの人が作業する場が繋がっていることに意味があり、単なる平米の問題ではない。

⇒（委員）文化財を扱う立場であるため、動線や資料の管理、意識をしっかりとって、責任を持って管理できる体制にしていきたい。

6 閉会